

# 夜長ノ一ト

種田山頭火

青空文庫



小春日和のうららかさ。のんびりとした気持になって山の色彩を眺める。赤い葉、黄色い葉、青い葉、薄黒い葉——紅黄青褐とりどりのうつくしき。自然が秋に与えた傑作をしみじみ味わうたのしき。いつしか、うつとりとして夢みごころになる。自然の無關心な心、秋の透徹した気、午後三時頃の温かい光線が衰弱した神経の端々まで沁みわたって、最う社会もない、家庭もない——自分自身さえもなくなろうとする。

けたたましい百舌鳥の声にふつと四方の平静が破れる。うつくしい夢幻境が消えて、いかめしい現実境が来る、見ると、傍に老祖母がうとうとと睡っている。青黒い顔色、白茶けた頭髮、窪ん

だ眼、少し開いた口、細堅い手足——枯木のような骨を石塊のよ  
うな肉で包んだ、古びた、自然の断片——ああ、それは私を最も  
愛してくれる、そして私の最も愛する老祖母ではないか。

老祖母の膝にもたれて『白』と呼び慣れている純白な猫が睡っ  
ている。よほどよく睡っていると見えて、手も足も投げ出して長  
くなれるだけ長くなっている。かすかな鼾の声さえ聞える。

その猫の尻尾に所謂『秋蠅』が一匹とまっている。じつとして  
動かない。翅の色も脚の色もどす黒く陰気くさい。衰残の気色が  
ありありと見える。

秋の田園を背景として、蠅と猫と老祖母と、そして私とより成  
るこの活ける一幅の絵画。進化論の最も適切なる、この一場の実

物教授。境遇と自覚。本能と苦痛。生存と滅亡。

自覚は求めざるをえない賜である。探さざるをえない至宝である。同時に避くべからざる苦痛である。

殊に私のような弱者に於て。



新刊書を買うて帰るときの感じ、恋人の足音を聞きながら、その姿を待つときの感じ、新鮮な果実に鋭利なナイフをあてたときの感じ。……

その日の新聞を開いたときの匂い、初めて見る若い女性に遇うたときの匂い、吸物碗の蓋をとったときの匂い、埃<sup>エジプト</sup>及煙草の口を切ったときの匂い、親友から来た手紙の封を破ったときの匂い。

…  
…

穏かな興奮と軽い好奇心と浅い慾望と。……

○

一度行つた土地へは二度と行きたくない。一度泊つた宿屋へは二度と泊りたくない。一度読んだ本は二度と読みたくない。一度遇つた人には二度と遇いたくない。一度見た女は二度と見たくない。一度着た衣服は二度と着たくない——一度人間に生れたから、一度男に生れたから、一度此地に生れたから、一度此肉躰此精神と生れたから。……

一度でなくして二度となつたとき、それは私にとって千万度繰り返すものである。終生□れ難い、離れ得ないものである。

○  
いつまでもシムプルでありたい、ナイーブでありたい、少くとも、シムプルにナイーブに事物を味わいうるだけの心持を失いたくない。

酒を飲むときはただ酒のみを味わいたい、女を恋するときはまだ女のみを愛したい。アルコールとか恋愛とかいうことを考えたくない。飲酒の社会に及ぼす害毒とか、色情の人生に於ける意義とかいうことを考えたくない。何事も忘れ、何物をも捨てて——酒というもの、女性というものをも考えずして、ただ味わいたい、ただ愛したい。

○

片田舎の或る読者から観て——その読者の受ける気分とか感じとか心持とかいうものによつて、日末現代の文学雑誌及び文学者を二つのサークルに分つことが出来る。

スバル、白樺、三田文学、劇と詩、朱欒。永井荷風氏、吉井勇氏、北原白秋氏、秋田雨雀氏、上田敏氏、小山内薫氏、鈴木三重吉氏。……

早稲田文学、文章世界、帝国文学、新小説。島村抱月氏、田山花袋氏、相馬御風氏、正宗白鳥氏、馬場孤蝶氏、森田草平氏。……

○

現代の日本文明を呪咀して、江戸文明に憧憬し仏蘭西文明を駆



歌する荷風氏。現実の醜悪を厭うて夢幻に遁れんとする未明氏。温雅淡泊よりも豊艶爛熟を喜ぶ白秋氏。

或る意味に於て、すべての人間はアイデアリストである。ドリマーである。ロマンチケルである。アナクロニズムといい、エキゾチシズムという語は色々な、複雑な意味を持っていると思う。



俳壇の現状は薄明りである。それが果して曙光であるか、或は夕暮であるかは未だ判明しない。

俳句の理想は俳句の滅亡である。物の目的は物そのものの絶滅にあるということ、此場合に於て、殊に痛切に感ずる。

(「青年」明治四十四年十二月号)

# 青空文庫情報

底本：「山頭火随筆集」講談社文芸文庫、講談社

2002（平成14）年7月10日第1刷発行

2007（平成19）年2月5日第9刷発行

初出：「青年 明治四十四年十二月号」

1911（明治44）年12月

入力：門田裕志

校正：仙酔ゑびす

2008年5月19日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

# 夜長ノート

種田山頭火

2020年 7月13日 初版

## 奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail [info@aozora.gr.jp](mailto:info@aozora.gr.jp)

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>  
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。  
<http://tokimi.sylphid.jp/>